

怪談牡丹灯籠

序

春のやおぼろ

青空文庫

およそありの儘まゝに思こころう情いいあらを言う顯あらわし得うる者は知しらずくいと
 巧妙まことなる文まをもものして自然びじに美辞のりの法かなに称なうと士班すべん釵さあの翁おきなはい
 いけり真まことなるかな此この言葉かや此このごろ談かい談だん師し三遊さん亭ていの叟おじが口く演えん
 せる牡丹ぼたん灯籠とうろうとなん呼よび做なしたるつくりものがたり作譚たんを速すみ記きという法ほうを
 用もちいてそのままに膽う写つしとりて草紙そうしとなしたるを見み侍はべるに通つう篇へん
 俚言俗語りげんぞくごの語ことばのみを用もちいてさまで華はなあるものとも覺おぼえぬものから
 句くごとに文まごとにうたゝ活動おもむする趣きありて宛さながら然さまのあたり萩はぎわ
 原某らそれに面合おもてわするが如おつゆく阿露おとめの乙女あいみ逢見あゆる心地あいかわ
 の粗そ忽つかしき義僕ぎぼく孝助こうすけの忠まめやかなる読よみきたれば我われ知しらずあるいは笑
 い或まことは感じてほとまことく真まことの事こととも想おもわれ仮作つくりものとは思おもわずかし

是はた文の妙なるに因る歟然り寔に其の文の巧妙なるには因ると
 雖も彼の圓朝の叟の如きはもと文壇の人にあらねば操觚を学びし
 人とも覚えししかるを尚よく斯の如く一吐一言文をなして彼の
 爲永の翁を走らせ彼の式亭の叟をあざむく此の好稗史をも
 のすることいと訝しきに似たりと雖もまた退いて考うれば単に叟
 の述る所の深く人情の髓を穿ちてよく情合を写せばなるべく
 たゞ人情の皮相を写して死したるが如き文をものして婦女童幼
 に媚んとする世の浅劣なる操觚者流は此の灯籠の文を誦て
 圓朝叟に耻ざらめやは聊感ぜし所をのべて序を乞わるゝまゝ記し
 て与えつ

春のやおぼろ

しるす

青空文庫情報

底本：「圓朝全集 卷の二」近代文芸資料複製叢書、世界文庫

1963（昭和38）年7月10日発行

底本の親本：「圓朝全集 卷の二」春陽堂

1927（昭和2）年12月25日発行

※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、底本の表記をあらためました。

ただし、繰り返し記号はそのまま用いました。

また、総ルビの底本から、振り仮名の一部を省きました。

底本中ではばらばらに用いられている、「其の」と「其」、「此

の」と「此」、「彼《あ》の」と「彼《あの》」は、それぞれ「其の」「此の」「彼の」に統一しました。

入力：小林繁雄

校正：仙酔ゑびす

2010年2月8日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waazora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

怪談牡丹灯籠

序

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫
著者 春のやおぼろ
URL <http://www.aozora.gr.jp/>
E-Mail info@aozora.gr.jp
作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU
URL <http://aozora.xisang.top/>
BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>